

第九章 滿洲事變ト國際聯盟 (三)

聯盟總會ヨリ提出スベキ報告書ノ處置

再ビ聯盟トノ折衝ニ戻ル。日支事件ハ細カイ問題丈デモ相當ニアル、ソシテ各般ノ關係上甚ダ手數ガ掛ツタガ大局ニ影響ナキモノハ之ヲ省略シ、上海事件ノ次ニ起ツタ問題ハ、規約第十五條ヲ日支事件ニ適用ノ結果第十二條第二項ニ從ツテ總會ニ繫屬後六箇月内ニ總會ヨリ提出スベキ報告書ノ處置ニ關スル案件デアル。日本ハ第十五條ノ適用ニ不同意ヲ聲明シテ居ルカラ、理論上本問題トハ沒交渉デ、全然之ヲ無視シテ差支ナイノデハアルガ、飽迄直截ニ此態度ヲ執レバ、必ズ規約解釋ノ問題ヲ生ズルカラ、相當慎重ノ折衝ヲ要スル事實問題トシテ、規約第十二條ノ規定スル六箇月内詳言スレバ日支事件ヲ總會ニ移ス決定ヲシタノハ二月十九日デアルカラ、六箇月ノ期間ハ八月十九日ニ滿了スルノデ、夫レ迄ニ「リットン」報告書ヲ聯盟ガ接受スルコトハ全然其望ガ無イ、此報告書ヲ待タズニ總會乃至十九人委員會ガ規約所定ノ報告ヲ作ルコトハ、假令不可能ニ非ズトスルモ、極メテ無謀デアルカラ、六箇月ノ期間延長ノ必要ニ付テハ自然意見ガ一致シテ來タ。理論上カラ云ヘバ、調査委員ヲ支那ニ送ルコトヲ決議シタノハ理事會デ、規約第十一條ハ理事會ノ報告提出義務ニ觸レテ居ラヌカラ、其提出期限ニ關スル問題ハ起リ得ヌ、又理事會ノ依頼デ調査ニ行ツタ委員會モ其報告提出ニ何等期限ヲ附ケラレテハ居ラヌ。然ルニ其後日本ノ反對ヲ無視シ勝手ニ第十五條適用ニ決シ

タ結果 難關ニ逢着シタカラトテ、理事會ハ勿論調査委員會ノ知ツタコトデハ無イ。更ニ此期限延長問題ニ關聯シテ規約第十二條ノ解釋問題モ起ツタガ、同條ニ規定スル期限ハ便宜上書イタノニ過ギヌモノ故、當事國悉ク延長ニ同意シ、又聯盟總會ガ之ヲ承認スレバ、六個月ノ期限ヲ固執スルヲ要セヌト云フニ一致シタ、ソシテ我國トシテハ延長サセルノガ無論利益デ、若シ速急ニ十九人委員會ガ報告書ヲ作ルニ於テハ、其歸結ハ極メテ明カデアル、唯如何ナル形式デ我方ガ延期承諾意思表示ヲスルカト云フコトガ殘ル問題デアル。恰モ「イマンス」議長ガ勞山會議ノ爲メ六月十三日壽府ニ來着スルトノ情報ニ接シタカラ、筆者モ其日ノ朝同地ニ赴イタ。

先ヅ「ドラモンド」事務長總長ト會見シタラ、同氏ハ規約第十二條第二項ノ處置ニ付テハ二ツノ方法ガ考ヘラレル、其一ハ「リットン」委員會カラ滿洲問題ニ關スル意見ヲ至急ニ提出サセ、之ヲ基礎トシテ規約所定ノ期間内ニ報告書ヲ作ルコトデ。其二ハ右期限ヲ延長シ、委員會ヨリノ完全ナ報告書ノ提出ヲ待チ、之ヲ研究シタ上デ報告ヲ作ルコトダト述ベタ。之ヲ聞タ筆者ニハ事務總長第一ノ考案ガ其心カラ出タ、誠意ノ披瀝トハ如何ニシテモ受取レヌ、殊ニ前ニ書イタ如ク日本ノ反對ヲ無理ニ押切ツテ第十五條ヲ適用スルコトニシタ結果カラ生ジタ障害デアルカラ、我々ハ聯盟ガ苦シンデ居ルノヲ寧ロ當然視シテ居ルノデ、從ツテ事務總長ノ第一ノ提案ハ徒ラニ虛勢ヲ示シテ我々ヲ威嚇セントノ試トシカ思ハレナカッタカ、成ルベク穩カニ事ヲ纏メタイト考ヘ、第一ノ考案ニハ可能性ガアルカト問フタラ、勿論ダト色ヲ正シタ故、筆者モ亦態度ヲ改メ、夫レハ至極面白イ、早速「リットン」卿ニ電報シテ報告ヲ取寄セタラ宜カラント云フタラ、今度ハ先方ガ折

レテ、尤モ此方法ニ依ルノハ餘リ望ム所デハ無イト述べタカラ、筆者モ語氣ヲ和ラゲ、自分ノ考デハ期限延長ニ日本ガ異存アルトモ思ハヌト告ゲタ、事務總長ハ頗ル安心且ツ満足シタ様子ヲ示シタガ、夫レデモ未タ負ケ惜ミラシク、第一ノ考案ニ依ルト理事會ノ審査スル期間ガ極メテ少ナイカラ、自分トシテモ期限延長ヲ希望シテ居ルト語り、如何ニモ理事會ニ審査權ヲ留保スルコトニ付テ我々ニ恩ヲ賣ルガ如キ口吻ヲ漏シタノハ、少ナカラヌ筆者ノ反感ヲ唆ツタ。

「リットン」報告書ノ先議機關問題

之ニ付テ一言シテ置カネバナラヌコトハ、筆者ガ着佛後初メテ壽府ニ行ツタ時、聯盟デハ日支事件ニ規約第十五條ガ適用サレルコトト成ツタ以上、其以前ニ理事會ガ第十一條デ取扱ツテ居タ事柄ハ、當然ノ歸結トシテ總テ總會乃至十九人委員會ノ權限内ニ入り、「リットン」報告書ノ如キモ理事會ノ干與ヲ離レ、假令調査委員會ガ之ヲ理事會ニ送致シテモ、理事會ハ單ニ其儘デ右カラ左ニ總會ニ移牒スベキダトノ意見ガ頗ル優勢ナノヲ知り、其意外ナノニ喫驚スルト同時ニ、若シ此空氣ヲ自然ニ放任シ更ニ誇張セシムルニ於テハ、終ニ收拾シ能ハヌ事態ヲ惹起スル虞ガアルカラ、筆者ハ機會アル毎ニ其不條理ナル所以ヲ力説意ラナカツタガ右ノ理窟ノ本元ハ大國ノ法務員殊ニ伊太利ノ「ビロツチ」氏ダトコト故、五月九日彼ト英國ノ「サー、ウキリヤム、マルキン」トヲ晝食ニ招イテ、隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ツタ、此兩氏ハ巴里講和會議時代カラ筆者ノ友人デ、長イ間一緒ニ條約起草事務ヲ取扱ツタ間柄故、充分意思ノ疏通ヲ見タ如ク感ジタ、其爲メカ否者ノ友人デ、長イ間一緒ニ條約起草事務ヲ取扱ツタ間柄故、充分意思ノ疏通ヲ見タ如ク感ジタ、其爲メカ否

カハ別問題トシテ「リットン」委員會中間報告ノ取扱ニ關スル五月十日ノ理事會デ「マトス」議長ノ爲シタ聲明ハ、其前日筆者ヨリ事務總長ニ手交シタ案文ト趣旨デ、理事會ガ「リットン」報告ニ先ツ意見ヲ附スル權能アルコトヲ明カニシタ、其以後「リットン」報告ニ對スル理事會ノ審議權ハ確立シ、前記事務總長ノ話頭ニモ上ルニ至ツタノデアアル。

滿洲國承認問題ト總會報告書提出期限延長トノ交錯

「ドラモンド」氏ハ更ニ語ヲ繼ギ、日本ガ其留保ハ留保トシテ之ヲ維持シツツ、期限延長ニ異議ナキコトヲ明カニシ、本件ヲ圓滿ニ解決スルコトガ出來レバ至極結構ダト述べタカラ、筆者ハ議長ヨリ書面デ問合セガアレバ、例ヘバ「從來ノ留保ヲ拋棄スルコトナク、第十二條ノ期限延長ニ對シテハ異存ヲ插マズ」ト云フ如キ趣旨ヲ回答スル積リダト答ヘタ。其翌六月十四日「イマンス」議長ニ面會シ此「ライン」デ打合ヲ遂ゲ相互ノ諒解モ着イタノデ、十五日ニ壽府ヲ立ツテ巴里ニ歸ツタ。筆者ガ本件ノ爲メニ態々壽府ニ出向タ理由ハ支那側トシテハ十九人委員會ガ未タ緊張味ヲ充分ニ持ツテ居ル間ニ、滿洲問題ニ容喙サセルコトガ出來タラ結果ハ兎モ角ク、目先キ丈ケハ非常ニ利益ナノタカラ、或ハ期限延長ニ反對シ、純理論ヲ糾合シテ如何ナル策動ヲスルカモ知レヌ、仍テ早キニ臨ミ我ヨリ進ンデ假令主義上丈ケデモ延期ノ方針ニ、聯盟幹部ノ意嚮ヲ固メサセテ置クノガ得策タト考ヘタ爲メデアアル。然ルニ六月十四日我衆議院ガ全會一致ヲ以テ滿洲國急速承認要求ノ決議ヲ爲シ、本邦新聞紙舉ツテ承認論ヲ唱ヘ初メタカラ、小國連ハ非常ニ神經ヲ刺戟サレ、支那側

ノ策動モ加ハツテ、日本ガ先キニ立ツテ延期ニ共鳴スルノハ、何カ魂膽ガアルノデハ無カロウカ、聯盟ヲ引摺ツテ置ク間ニ滿洲デ既成事實ヲ作ル計畫ニ相違ナイ、ト云フ様ナ疑惑ヲ懷カシムルニ至ツタ。從ツテ延長サルベキ期間ニ付テモ、六月十三日事務總長ハ三個月延バス積リダト云ツテ居タノヲ、實際之デハ不充分故間モ無ク六個月ニ改メ、十四日議長カラ此事ヲ筆者ニ告ゲ、議長自身モ異存ナイト云ツタニ拘ラズ、十五日事務總長ハ六個月ハ少シ長過ギテ誤解ヲ起サセル虞ガアルカラ四個月ニシタイト述べ、更ニ十六日ニハ熟考ノ末議長トモ協議シタ結果、延長期間ハ總會ガ理事會ヨリ其意見ト共ニ「リットン」報告書ヲ受取ツタ後十九人委員會デ之ヲ決定スルコトトシ、今ハ單ニ期限ヲ延長スル趣意丈ケラ定ムルコトニシタト杉村公使ニ告ゲタ。

支那ノ策動

支那ハ更ニ小國連ヲ挑發スル爲メ、滿洲國承認速進ニ關スル我衆議院ノ決議ヲ援用シ、右ハ客年九月及十二月ノ理事會決議ニ違反シ、事態ヲ擴大シ、調査委員會ノ仕事ヲ失敗ニ歸セシメ、極東ニ重大紛争ヲ惹起セシムル底ノモノデアルカラ、前記諸決議ノ遵守ヲ日本政府ニ要求スル爲メ、直チニ手段ヲ講ゼンコトヲ十九人委員會ニ要求スル書翰ヲ六月二十三日議長ニ送ツタノデ、翌二十四日十九人委員會開催ニ決シタトノ報ニ接シタカラ筆者ハ二十三日ノ夜汽車デ巴里ヲ立チ、翌朝事務總長ヲ訪問シタ處、氏ハ支那側カラ今斯様ナ要求ヲスルノハ甚ダ面白カラズト考へ、其中止方ヲ顔代表ニ勸告シタガ、彼ハ上海停戰協定ノ成立ハ國論ノ批

判ヲ捲起シ、爲メニ政府主席ハ辭職ノ已ムナキニ立到ツタ事情モアリ、政府ハ何トカ此際面子ヲ整フル必要ニ迫マラレテ居ルカラ此要求ノ撤回ハ困ルト述べタト告ゲタカラ、筆者ハ帝國議會ノ決議ナルモノハ、先例ヨリ見テ自分ノ了解スル所デハ、勸告又ハ希望表示ト解スベキモノデ、政府ガ之ニ如何ナル考慮ヲ加フルカハ自ラ別問題デアル、自分ハ政府ガ今直ニ右ノ決議ヲ取上ゲルト云フガ如キ報道ニハ接シテ居ラヌ、然ルニ若シ十九人委員會又ハ總會ガ、支那側ノ要求ニ關聯シテ或種ノ措置、例ヘバ議長ヨリ日本政府ニ對シテ勸告ヲ發スル様ナコトガアレバ、折角是迄自重シ來ツタ政府モ、壽府ノ行動ニ刺戟サレタ輿論ノ手前、國論ヲ到底押ヘ切ルコトガ出來ナク成リ、如何ナル結果ニ到達スルカ豫言ハ出來ヌ、貴下ハ本件支那側ノ要求ニ付何カ考案ヲ持ツテ居ルカト尋ネタラ、事務總長ハ自分モ目下ノ處何ノ成案モ無イ、然シ之ガ取扱方如何ニ依ツテハ、十九人委員會等ガ豫期シテ居ルノト正反對ノ結果ヲ生ズルコトノアルノハ、自分モ能ク了解シテ居ル從ツテ今日ノ十九人委員會ニ本件ヲ上程セヌ譯ニハ行カヌガ、餘計ナ措置ヲ執ラヌ様指導シタイ考ヘダト答ヘタ。

期限延長ニ關スル「イマンス」議長書翰

十九人委員會ハ六月二十四日午後豫定ノ如ク開カレ、承認問題ニ關スル支那側書翰ニ關シテ相當議論ガアツタ模様ダガ、結局總會報告提出期限ノ延長ニ承諾ヲ求ムル議長書翰中ニ、末尾ヨリ數ヘ第二項ヲ加へ、其他ノ駄句ハ之ヲ弄セヌコトニ議纏マリ、此手紙ハ即日筆者ノ手許ニ送附サレタ、即チ左ノ通りデアル。

調査委員會ヨリ接到シ、六月十五日理事會及聯盟國ニ配布サレシ最近ノ通報ハ、其末段ニ於テ、委員會ハ遅クモ九月中旬頃壽府ニ其報告書ヲ提示スル心組ナルコトヲ記載セリ。

調査委員會ノ報告書ガ總會ヨリ理事會ニ要スレバ其意見ヲ附シテ移牒セムコトヲ請求セル事件資料ノ重要ナル元素ノ一ヲ構成スルコト疑ナキガ故ニ、右報告書ガ通達セラルベキ理事會及聯盟國ニ於テ之ヲ詳細ニ講究スル爲メ必要ナル時日ヲ豫メ計算ニ入ルルヲ要スベク、然ルニ於テハ規約第十二條ノ豫定スル六個月ノ期間ヲ正確ニ本件ニ適用スルコト不可能ナリト思ハル。

余ハ特別委員會ニ議席ヲ有スル總會員ニ諮詢セル後、左記ノ提議ヲ貴下等ニ爲ス光榮ヲ有ス、此提議ハ貴下等及日本(支那)代表ノ同意ヲ得ルニ於テハ近日中ニ本會議ヲ召集シテ之ヲ總會ニ提出スベシ。

「總會ハ狀況上已ムヲ得ザル手段ノ特質ニ顧ミルト共ニ日、支兩國政府ノ代表者ガ、孰レモ規約第十二條第二項ニ豫定セル期間ノ延長ニ同意ナルコトヲ議長ニ通告セルヲ認證シ、嚴ニ必要ナル程度ヲ限り且ツ此延長ハ先例ヲ構成セストノ諒解ノ下ニ、該期間ノ延長ヲ決議ス。

總會ハ調査委員會ノ報告書接受後、特別委員會ノ提議ヲ基礎トシ、延長期間ヲ決定スベシ。

本延長ヲ決議スルニ當リ、總會ガ其事業ヲ不當ニ延引セントスル何等ノ意思ナキコト勿論ニシテ、總會ハ事情ノ許ス限り速カニ其事業ヲ完了セント欲ス、殊ニ總會ハ特別委員會ガ十一月一日以前ニ調査委員會報告書ノ審査ヲ開始スル地位ニアルベキコトヲ期待ス」

此審議ヲ貴下ニ爲スニ當リ、余ハ理事會ニ於テ兩當事國ガ承諾シ完全ナル執行力ヲ保持スル月三十日及十

九二月十日ノ決議ニ從ヒ、事態ヲ擴大セズトノ約束ガ、嚴正ニ遵守セラルベキヲ堅ク期待スルコトヲ附加スル義務ヲ有ス。貴下ハ余ト同ジク右ノ決議ガ六個月ノ期間ニシテ延長セラルル場合、此延長期間中全然有効ニ存續スルモノト考ヘラルベキコトヲ確信ス、余ハ總會ガ三月十二日採用シ、理事會ノ二決議ヲ喚起セル決議ヲ均シク引用ス。

余ガ貴下ニ爲ス光榮ヲ有スル提議ニシテ、余ノ希望スルガ如ク貴下ノ同意ヲ得ルニ於テハ、總會本會議ヲ開キ得ル爲メ、出來得ル限り速カニ之ヲ余ニ知照セラルレバ幸ナリ。

右議長ノ照會ニ對シ、筆者ハ翌二十五日過般議長等ト打合セタ通り、左ノ如キ極メテ簡單ナ回答ヲ送ツタ。

六月二十四日附貴翰ヲ受領セル余ハ、從來ノ留保ヲ拋棄スルコトナク、規約第十二條所定ノ期間延長ニ異議ナキ旨、貴下ニ通報スルノ光榮ヲ有ス。

支那ノ回答ハ二十六日附デ、左ノ通りデアル。

規約第十二條第二項ニ豫定セル期間ノ延長ニ關スル提議ヲ含ム本月二十四日附貴下ノ通告ヲ余ハ接受スルノ光榮ヲ有ス、余ハ右ノ提議ヲ直ニ余ノ政府ニ轉達セリ。

余ハ情報トシテ閣下ニ本國政府ヨリ接到セル訓令ヲ通知ス。

余ノ政府ハ事態ガ之ヲ絶對ニ必要トスル以上ニ六個月ノ期間ガ延長セラレザルベシトノ條件ニテ、貴下ノ通告中之ニ包含セラルル宣言中ニ記載セラルル提議ヲ承諾ス。

余ノ政府ハ十九人委員會ガ「リットン」委員會報告書ノ審査ヲ、十一月一日以前ニ開始スル堅キ意嚮ヲ有

ストノ事實ヲ諒承セリ。余ノ政府ハ此審査ガ單ニ開始セラルルノミナラズ、右ノ日時前ニ總會ノ最終報告ガ承認セラルルカ、然ラザルモ正ニ承認セラルベキ状態ニ在ランコトヲ期待ス。

客年理事會ノ二決議及三月十一日總會ノ決議ガ採擇セラレシ以來、日本ハ軍事占領地帯及戰鬪ヲ擴ゲ、支那人ノ生命財産ヲ夥シク毀損シ又滿洲ニ傀儡政府ヲ設ケ且ツ之ヲ援助シ、絶エズ事態ヲ擴大セリ。故ニ支那政府ハ特別委員會ニ依リテ推獎セラレシ此提議ヲ、總會ガ採擇スルニ當リ、延長期間中此種ノ又ハ其他如何ナル種類ノモノニテモ、新タナル事態擴大ヲ認容セサルモノト了解ス。

前記議長書翰終リヨリノ第二項ハ、滿洲國承認迅速ニ關スル我衆議院決議ニ刺戟サレテ追加サルニ至ツタモノデ、議長ノ指導宜シキヲ得タ爲メ、是位ノ文句デ纏マツタノデアル。然ルニ十九人委員會ノ小國代表中ニハ、此文句丈デ滿洲國承認問題ヲ片付ケントスルノニ不滿ヲ抱ク者ガアリ、甚シキハ總會ノ席上デ修正案ヲ提出シ、總會ヲシテ此點ニ付一層明白ナ意思表示ヲサセ様ト考ヘテ居ル者サヘアルトノコトデ、聯盟主腦部ハ何トカシテ之ヲ緩ニスル爲メ二十九日ニ今一度十九人委員會ヲ開キ、充分議論ヲサセテ氣分ヲ和ラゲ、總會デノ紛糾ヲ避クルニ決シ、同日開催ノ第ダツタ總會ヲ三十日ニ延バスコトニシタ。恰モ「ローザンヌ」會議ガ其頃折衝ノ頂點ニ達シ、其爲メ「イマンス」外相ハ同地ヲ離レルコトガ出來ズ、壽府ノ臨時總會ハ更ニ一日之ヲ延バシ、七月一日ニ開クコトト成ツタ。從ツテ十九人委員會モ開會ヲ延期シ總會ノ直前ニ集マルトノコト故、十九人委員會ト總會トノ中間ニ「イマンス」議長ト會談スル時間ノ無イノヲ懸念シタ筆者ハ、三十日事務總長ヲ訪問シテ過日「ベネシユ」「マダリヤガ」等ノ小國代表ガ「ローザンヌ」ニ議長ヲ訪問シ總

會ノ議事ニ付或種ノ要求ヲシタトノ新聞記事ヲ見タカト口ヲ切ツタラ、事務總長ハ彼等ガ議長訪問ノ主タル目的ハ、總會デ各員自由ニ發言スルヲ許サレタイト云フニアリテ「イマンス」氏ハ議長トシテ之ヲ爭フ譯ニハ行カヌガ、其場合各員ハ自己ノ言議ノ結果ニ付當然責任ヲ取ラネバナラスト答ヘタト聞テ居ルト述ベタ。是ヨリ先キ六月二十八日筆者ハ晚餐ニ理事會議長「クワテマラ」ノ「マトス」氏其他ヲ招キ懇談ノ機ヲ作ツタガ、此際西班牙ノ代表デ理論一點張ノ「マダリヤガ」大使ハ、自分ハ今度ノ總會デ發言スル積リデアルガ之ハ日本ノ行動ニ對シテ彼レ批評セントスルノデハ毫頭ナイノデ、滿洲事變ガ特殊ノ問題デアルコトハ自分モ能ク了解シテ居ル、然シ之ニ關聯シテ聯盟ノ採ツタ手段ガ先例ト成リ、今後歐洲ニ何カ事件ノ起タ時援用サレル様ナコトガアツテハ困ルカラ、此見地ヨリ意見ヲ開陳スルニ過ギヌ、此點ハ吳々モ誤解ナキ様願イタイト連リニ陳辯シテ居タ。「マトス」氏ハ筆者ニ耳語シテ「マダリヤガ」ハ自己宣傳ノ爲メ何事ニ依ラズ盛ニ發言シタガルノダガ、其目標ハ「ドラモンド」ノ後釜ヲ狙ツテ居ルノダト云フテ居タ。开ハ兎モ角トシテ曾テ聯盟事務局ニ居タ人間ガ政府代表ト成ツテ總會又ハ理事會ニ參列スル時、其議論ガ極メテ偏狹デ、徒ラニ理窟ニノミ走り、大勢ヲ洞察シテ實際ニ即スル解決策ヲ立テントスルガ如キ廣イ見方ヲスルコトノ出來ヌ缺點ヲ、筆者ハ屢々體驗シタ。「マダリヤガ」大使ハ其極端ナ例ダガ、諾威ノ「ホルバン」公使ノ如キモ其範ニ漏レヌ。斯ク觀ジ來ルト聯盟事務局員ナル者ノ考ヘノ持チ方ヤ氣ノ配り方乃至目ノ付ケ方ニ付テモ甚ダ寒心スベキモノガアル、彼等ハ同僚中ノ猶太系ノ者ニ甚ダシク感化セラレ、賄賂ヲ役徳ト考ヘテ居ル者サヘアル、殊ニ何回トナク變名シ、恰モ無國籍ノ狀態デ大戰前所謂政治「ゴロ」ヲシテ居タ様ナ人間ニ向ツテ、

公平無私ノ判斷ヲ期待スルガ如キハ、到底無理ナ注文デアル。又小國ノ代表ガ聯盟デ少シ顔ガ賣レロガ利ケル様ニ成ルト、其性行態度ガ頗ル事務局員ニ似通ツテ來ル「チエツク」ノ「ベネシユ」瑞西ノ「モッタ」等ハ其好適例デ、前者ノ如キハ其代表スル國ガ如何ナ經緯デ成立シタカ大戰中自己ガ巴里デ如何ナ狀況ニ在ツタカト云フ様ナコトハ、疾クニ忘レタ顔ヲシテ居ルノミデ無ク、十九人委員會デノ態度ハ餘リニ了解シ兼ねタカラ、筆者ハ前記ノ晚餐後別ルルニ臨ミ、御互ニ昔ノ苦勞ヤ西比利亞ノ事等時々思ヒ出シテ、當時ノ友好ヲ溫メ様デハ無イカト苦言ヲ呈シテ置イタ。畢竟小國ニ辭ヲ低クシテ諒解ヲ求ムル如キ態度ヲ執ルト、其結果ハ却テ不良デアル、彼等ハ之ヲ目シテ日本ノ敗北ト解シ、鼻息ハ益々荒ク成リ、輕侮ノ色ヲ示シ衝突ク氣分ヲ露出スル小國氣質ハ正ニ斯クノ如キモノデ前編ニ書イタ「イマンス」外相ガ松井大使ト「サン、セバスチアン」ノ理事會デ議席ヲ爭ツタコト等ト綜合沈思スレバ、新興日本ノ地歩ヲ世界ニ確立スル迄、其前途ニ獨ホ幾多ノ困難アルコトヲ、充分覺悟セネバナラス。

七月一日十九人委員會及臨時總會

七月一日豫定ノ如ク十九人委員會ニ引續キ總會ガ開カレタ、此十九人委員會デハ書類配布ノ問題ガ議論ノ燒點ダツタトノ事デ此問題ハ「ローザンヌ」ニ「マダリヤガ」等ガ「イマンス」議長ヲ訪問シタ時既ニ提起サレタ模様デアル、然ラバ書類配布ノ問題トハ何ノコトカト云フニ、支那側カラ出シタ書類ヲ議長ト事務總長ト丈ケデ處理シタノニ對スル非難ダトノコトダ、之ハ規約第十二條ノ期間延長ニ關スル議長書翰ニ對スル支

那回答ハ頗ル強硬ト云フカ寧ロ脫線氣味ノモノデアツタ爲メ、議長及事務總長ガ大局の見地ヨリ其不可ナル所以ヲ說示シ、書キ改メサセタモノガ前掲ノ回答デ、其日附ト配布トノ間ニ四日ノ間隔ガアルノハ此消息ヲ物語ルニ充分ダガ、十九人委員會ノ急進派ハ本件ニ關シ大國側ハ無論相談ヲ受ケテ居ルトノ推定ヲ前提トシテ、議長及事務總長ガ勝手ノ振舞ヲスルノハ怪シカラスト、所謂小國根性カラ斯クノ如キ論戰ト成ツタモノト思ハレル。國家平等權ハ理想デハアルガ、何個國カガ一緒ニ成ツテモ、大國大都市ノ人口ニモ及バヌ手合カ、實力モナク、利害モナク、悉ク無責任ノ辯論ニ終ルヲ承知シナガラ、衆ヲ倚ンデ團結シ、多數ヲ背景トシテ空威張ヲ爲シ、本國ニ其主張ヲ實行スル能力モ亦意思モ利害モナキヲ知リナガラ、代表者ガ利己の見地ヨリ擅ニ宣傳ヲ試ムルノ弊風ハ年ト共ニ甚ダシキヲ加フルニ至ツタ、若シ聯盟ニシテ早キニ及ンデ之ヲ訂正シ規約立案當時ノ如キ健全ナル態度ニ立チ戻ラヌニ於テハ、此國際機構ノ將來ハ頗ル憂慮ニ値スルモノト思フ。七月一日ノ總會デハ、先ヅ土耳其ノ聯盟加入問題ヲ上程シ之ガ片付クト直チニ規約第十二條ノ期間延長問題ニ移リ、議長ハ冒頭上海ニ於ケル事態ノ改善ヲ披露セル後、滿洲問題ニ入り、總會報告書ノ提出期間ハ規約ノ規定ニ從ヘハ八月十九日ヲ以テ滿了スル處、「リットン」委員會最終報告ハ到底夫レ迄ニ間ニ合ハザルベク、假リニ急ギ提出セシムルトシテモ、翻譯、印刷乃至理事會、總會ノ審査等ノ爲メ相當ノ日數ヲ要シ該期間内ニ總會報告書ノ作成ハ事實不可能デアル、仍テ十九人委員會ハ熟議ノ末、右期間ノ延長ヲ必要已ムヲ得ズト認メ、日支兩國ニ對シテ延長ノ提議ヲ爲セルコトヲ述べ、延長期間ハ今日ヨリ之ヲ限定スルヲ得ズト雖モ、右ハ嚴ニ必要ナル程度ニ止ムベク、又此不能ハ例外的性質ノモノナレバ、今回ノ期間延長ハ決シテ前例

ヲ構成スルモノニ非ズト説明シ、日支兩國代表施書翰ヲ讀ミ上ゲタル後、日本ハ本提議ニ反對セザル旨、支那モ亦之ニ同意スル旨、各「オズザーヴーション」ヲ附シテ回答アリシコトヲ披露シタ。顏支那代表ハ規約期間ノ延長ハ重大ナ事柄デアル、支那ハ此延長ヲ尠ナカラズ遺憾トスルカ、各般ノ事情ヲ斟酌シテ本提案ヲ受諾スルコトトシタ、元來紛爭解決ノ爲メ長キ期間ヲ置クコトハ、甚ダ危險ナル故、規約ハ之ヲ六個月ト明定セルノデアアルガ、此八月ハ日支紛爭勃發以來既ニ十一個月ヲ經過スルコトニ成リ、支那トシテハ此上期間ヲ延長スルノハ誠ニ不本意デアル、仍テ延長期間ヲ絕對必要ノ程度ニ止メ、出來得ル限り速カニ總會ガ紛爭ヲ解決セムコトヲ切ニ希望スト述べ、更ニ語ヲ繼ギ、本期間ノ延長ハ政治的ニモ甚ダ重大ナル問題デ、其間種々ノ既成事實ノ發生ヲ見ル虞ガアル、現ニ日本ハ引續キ規約ヲ蹂躪シ、日本ノ傀儡タル滿洲國ハ税關ヲ押收シ、又日本軍ハ鹽稅七百萬弗ヲ差押タノミナラズ、多數日本人ハ滿洲國官吏トシテ雇傭セラレ、日本駐屯軍ノ數ハ前回ノ「リットン」報告當時ニ比シ大イニ増加シ、上海ニ於ケルト同様滿洲ニ於テハ血腥キ殺戮ガ引續キ加ヘラレテ居ルト強調シタ上、日本ノ行動ハ依然支那ヲ危殆ナラシムルモノデアルカラ、總會トシテハ期間延長ノ間モ、事態ヲ惡化セシムルガ如キ行爲、例ヘバ滿洲國承認ノ如キ行爲ヲ容認セヌコトガ肝要デアルト念ヲ押シ、最後ニ斯克ノ如ク聯盟規約ノ違反ガ行ハレ居ル限り、目下開會中ノ勞山會議、軍縮會議ノ成功ハ到底覺束ナイ、世界各國ハ經濟、軍縮等ノ問題解決ノ爲メニモ、日支問題ノ成行ニ付多大ノ關心ヲ持タネバナラスト結論シタ。

瑞典代表ハ期間延長ハ規約上重大ナル問題故、出來得レバ之ヲ避クルヲ要スルモ、目下ノ事態ノ特異性ニ鑑ミ、嚴ニ必要ナル最少限度ノ延長ヲ爲ストノ條件ニテ、又三月十一日總會決議ノ適用ヲ留保シテ之ニ同意スルト述べ「チエック」委員ハ不在中ノ「ベネシユ」外相ノ代理トシテ其聲明文ヲ讀上ゲ、現下ノ特別ナル事態ニ鑑ミ、全然例外的ニ延長ヲ認ムベキモ、右ハ事件ノ急速解決ヲ圖ル趣旨ニテ之ヲ承認スルモノナレバ、延長期間中ニ事態ヲ擴大シ又ハ平和的解決ニ障害ヲ及ボスガ如キ新事態ノ起ラヌコトヲ期待スト述べ、次デ墨國及西班牙ノ代表夫レ夫レ本件延長ノ例外的ナルコトヲ力説シ、右ニテ辯論ヲ終ハリシニ付、議長ヨリ期間延長ニ反對ナキヤヲ總會ニ諮リ、何人モ發言ヲ求メザリシヲ以テ、議長ハ期間延長ノ可決ヲ宣シタル後、前掲議長書翰末尾ヨリ第二項ノ一節ニ言及シ、日支兩國ガ理事會及總會ノ諸決議ヲ遵守シ、事態ヲ惡化セシムルガ如キコト無キヲ確信スル旨、殊ニ兩國ガ「リットン」委員會ノ事業ヲ妨グルガ如キ措置ニ出デザルベキヲ希望スル旨ヲ述べ、當日ノ總會ヲ終ツタ。筆者ハ此總會デ相當多數ノ發言希望者ガ在ルトノコトヲ耳ニセシ故、若シ彼等ガ時ノ調子デ勢ニ乘リ出スト、如何ニ脱線スルカ豫測シ難イカラ、各般ノ場合ニ善處對應シ得ル爲メ、種々ノ假題ヲ設ケテ腹案ヲ練リ、總會ニ臨ンダガ前記ノ通り各代表ノ所述ハ概ネ一般原則ニ關スルモノデ、又顏ノ陳疏ニ對シテ應酬スルノハ大人氣ナイノミナラズ、議長及事務總長ノ苦心ヲ無ニスル所以デアアルカラ、筆者ハ此總會中終始沈黙ヲ守リ續ケタ。後デ聞クト筆者ガ發言シナカツタコトヲ、議長モ亦事務總長モ非常ニ喜ンデ居タトノコトデ、大新聞ノ記者連中モ筆者ノ態度ヲ能ク了解シ、顏ノ評判ハ面白クナカツタト云フコトデアアル。